

糖尿病性腎症重症化予防事業の取組による効果の比較

目的：糖尿病性腎症による透析導入を予防するため、ハイリスク者に対して、受診勧奨や保健指導を行う。

方法：令和5年度特定健康診査受診者のうち、HbA1c \geq 7%の253人を対象とし、受診勧奨又は保健指導を実施した介入群（156人）と非介入群（97人）に分類し評価指標を比較した。評価指標はHbA1c、eGFR、尿蛋白とし、最終介入時に把握した検査値を用いた。その数値が把握できない場合は、令和6年度健診データの検査値を用いた。介入群のうち、介入後の検査結果がある者は96人（HbA1c）、71人（eGFR、尿蛋白）であり、非介入群は47人（HbA1c）、46人（eGFR、尿蛋白）であった。HbA1cとeGFRの比較は対応のあるt検定を用いて評価し、尿蛋白の比較は、尿蛋白が減った者を改善とし、改善率、維持率、悪化率を比較し評価とした。

結果：HbA1cによる比較では、介入群において、介入前8.0%から介入後7.4%と有意に改善を示し（ $P<0.001$ ）、非介入群では、7.7%（R5）から7.5%（R6）と改善していたものの有意差を認めなかった（ $P=0.410$ ）。eGFRによる比較では、介入群で-0.81、非介入群で-0.37であったが、いずれも有意差を認めなかった。尿蛋白による比較では、介入群で改善18.3%、悪化12.7%、非介入群で改善13.0%、悪化17.4%であった。（表1、2）

表1【介入群】

n=156	R5健診時 平均 \pm 標準偏差	介入後 平均 \pm 標準偏差	差異 平均 \pm 標準偏差	P値
HbA1c (%) (n=96)	8.0 \pm 1.1	7.6 \pm 1.2	-0.41 \pm 1.2	<0.001
eGFR (n=71)	71.2 \pm 18.1	70.4 \pm 18.9	-0.81 \pm 7.1	0.343

尿蛋白					
介入後 R5健診時	-	±	+	++	+++
-	46	6	1	0	0
±	7	1	1	0	0
+	4	2	1	1	0
++	0	0	0	0	0
+++	0	0	0	0	1

改善13人 (18.3%)
維持49人 (69.0%)
悪化9人 (12.7%)

表2【非介入群】

n=97	R5健診時 平均±標準偏差	R6健診時 平均±標準偏差	差異 平均±標準偏差	P値
HbA1c (%) (n=47)	7.7±0.9	7.5±1.1	-0.17±1.4	0.410
eGFR (n=46)	72.9±16.4	72.6±16.2	-0.37±7.4	0.738

尿蛋白					
R6健診時 R5健診時	-	±	+	++	+++
-	46	6	1	0	0
±	7	1	1	0	0
+	4	2	1	1	0
++	0	0	0	0	0
+++	0	0	0	0	1

改善6人 (13.0%)
維持32人 (69.6%)
悪化8人 (17.4%)

まとめ：本事業により受診勧奨や保健指導を行った結果、介入群ではHbA1cが有意に改善していた。また対象者にはHbA1cが7%以上の特定保健指導対象者や糖尿病の未治療者も含まれている。そのため、受診勧奨から医療受診につながり、治療が開始されたことで検査値の改善につながったことも効果として表れていると考える。